令和6年度 第2回習志野市スポーツ推進審議会 会議録

1 開催日時 令和6年11月13日(水)午後4時00分～午後5時00分

2 開催場所 市庁舎5階 委員会室

3 出席者

【会長】習志野市スポーツ推進委員連絡協議会 副会長 阿川 幸平

【副会長】習志野市スポーツ協会 副理事長 山口 一

【委員】習志野市医師会 医師 大沢 亜紀

日本大学生産工学部 教授 菊地 俊紀

習志野市スポーツ協会 理事 吉見 知子

千葉工業大学創造工学部教育センター 教授 引原 有輝

順天堂大学スポーツ健康科学部 先任准教授 大久保 菜穂子

習志野市小中学校体育連盟副会長(袖ヶ浦東小学校長) 瀬山 英樹

習志野市 政策経営部長 菅原 優

【事務局】生涯学習部 部長 府馬 一雄

次長 芹澤 佐知子

生涯スポーツ課 課長 忍 貴弘

主幹 高田 賢

主査 高橋 文樹

副主査 長束 友希央

主事 小林 飛大

主事 宮崎 紘

主事補 柳沢 恵莉加

4 報告

(1) スポーツ・運動に関するアンケートの結果について

5 会議資料 ※別添資料

(1) 令和6年度スポーツ・運動に関する市民アンケート報告書

<議事内容>

第1 会長の選出

【芹澤次長】

阿川委員を会長とする。

第2 副会長選出

【阿川会長】

山口委員を副会長とする。

第3 会議の公開

【阿川会長】

本日の会議は、「習志野市審議会等の設置及び運営等に関する指針」により、原則公開である。

また、傍聴者は定員に達するまで入室を認めるが、非公開となった場合は指示に従っていただく。

第4 会議録の作成等

【阿川会長】

会議録については、要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載した上で、非公開の審議事項を除く記録について、市ホームページ及び市役所グラウンドフロアの情報公開コーナーにおいて公開する。

第5 会議録署名委員の指名

【阿川会長】

大沢委員、菊地委員とする。

第6 報告事項

【忍課長】

スポーツ・運動に関するアンケートの結果について説明する。

調査の目的は、平成30年度に実施したスポーツ運動に関する市民アンケートからの経年変化、令和2年度策定の習志野市スポーツ推進計画における進捗の確認や評

価、そして次期スポーツ推進計画策定の基礎資料を得ることを目的に実施。

調査の概要については、昨年度、本審議会において内容・実施方法において、協議したが、市内在住の19歳以上の3,000人を対象に、年齢層ごとに資料記載の表の通りの分布にて実施した。

市民アンケートについては、文化に関する設問と合体した形の調査票として、実施。実施方法については、紙面による発送と、回答については、同じく紙面による返送と、電子申請サービスを用いてのインターネット上で行うことの併用とした。回収の数、回収率につきましては、資料の通り。

調査項目につきましては、本市のスポーツ推進の柱としている、するスポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツを主に実施。回答者の属性は資料の通り。

続いてアンケート結果について報告をする。

はじめに、するスポーツについて説明する。

- (1) 資料31ページを参照。現在の習志野市スポーツ推進計画の目標値である市民の60%が、週1回以上、スポーツや運動を行うことを目指すとして設定している。

週1回以上、スポーツや運動を行っている市民の割合は、今回が53.7%、前回は51.9%と、前回調査より上回る結果となった。

- (2) 資料32ページ。週1回以上、スポーツや運動を行っている人の割合を年代別に記載。結果については、60歳以上の割合が多く、中でも資料には記載のない70歳代以上の割合はさらに増加。

- (3) 資料34ページ。スポーツや運動をしない理由としては最も多い、時間がないとは反対に、比較的時間が取れるであろう年代が、スポーツや運動を実施しているのではないかと推測される。

- (4) 資料33ページ。スポーツや運動をする目的は、健康維持が最も多く、次いで、体力づくり、ストレス解消となっている。

単にスポーツを行う、スポーツを楽しむのではなく、フレイル予防など、いつまでも元気に健康な状態を保つために行っている部分も増えていると考えられる。

- (5) 資料34・35ページ。先程も触れた、スポーツや運動をしない理由である、時間がないに次いで、スポーツが苦手、お金がかかるという結果となっている。

また、興味があるイベントはとの設問については、1人でも参加できるイベントが多い結果になっている。

気軽に、手軽に参加できることも、要件の1つになっているのではと感じる。

次に、みるスポーツについて説明する。

- (1) 資料36ページ参照。習志野市スポーツ推進計画みるスポーツの目標値、市民の40%が競技会場でスポーツ観戦することを目指すと設定しているもの。

会場に行きスポーツを観戦する市民の割合は、今回は28.0%、前回は34.5%と前回調査より下回る結果となった。

会場に行き観戦する割合は、減少しているが、テレビなどで観戦する割合は46.2%と、前回の43.4%を上回っており、これはコロナ禍の影響で、テレビでの観戦が増加しているのではと考えられる。

また、IT化がさらに進み、パソコンやスマートフォンでの観戦も増加しているのではと考えられる。

- (2) 資料37ページ。スポーツに関する情報収集手段では、60歳以上を除くと、インターネットでの情報の入手が多くなっている。

また、20歳代以下、30歳代で、テレビなどでも観戦しないが33.3%、37.1%との割合となっている。観戦しない理由として、興味がない、時間がないという回答が多い結果となった。この年代のスポーツに関する興味関心を高めることが今後の課題だと思われる。

- (3) 資料14ページ。会場に行かない理由は何かとの設問に対して、テレビやインターネットの方が見やすいが多く、コロナ禍での制限もあったかと思うが、それも相まってIT化の加速や、いつでも、どこでも、見ることができるとも要因と考える。

また、するスポーツでも話にあったが、会場に行かない理由として、時間がない、お金がかかるが挙げられており、社会情勢、経済情勢が反映しているのではないかと考える。

東京オリンピックの設問については、コロナ禍で開催が1年遅れとなったが、テレビやインターネットを含め、約7割が観戦したという結果となった。

次に、支えるスポーツについて説明する。

- (1) 資料38ページ参照。習志野市スポーツ推進計画、支えるスポーツの目標値、市民の20%が、スポーツボランティアなどの活動を経験することを目指すと設定している。

スポーツに関するボランティア活動に参加したことがある市民の割合は、今回は9.0%、前回は13.3%と前回調査より下回る結果となった。

- (2) 資料20ページ参照。ボランティア活動に参加したいと思うの回答のうち、どのよ

うな条件があれば参加するののかという設問に対しては、時間があればという回答が多く、当然ながらスポーツや運動に携わる時間の有無がかなり影響していると考ええる。

支えるスポーツについては、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境の充実を目指すため、スポーツを側面から支援・協力する人や団体の存在は、必要不可欠である。

次に、市のスポーツ施策、本市のスポーツ団体等について説明する。

- (1) 資料 40 ページ参照。市のスポーツ推進団体として、地域住民が自主的、主体的に運営するスポーツクラブとして、平成 13 年から、市内 3 地域に設置した、総合型地域スポーツクラブ。

本市独自の事業として発足し、各地域のスポーツ、レクリエーションを通じたコミュニティ活動の推進を目的とした、習志野市市民スポーツ指導員。

スポーツ基本法に基づく、オール習志野の視点でスポーツ推進活動を担う習志野市スポーツ推進委員。

これらの活動団体についての認知度について伺い、そのうち、習志野市スポーツ推進委員が行うスポーツ奨励大会について、尋ねた。

いずれも、認知度としては、低い結果となった。

続いて、資料 41 ページを参照。障がい者スポーツの関心度について、資料の通り全体では 32.1%という結果で、前回の37.5%より下回った。

また、女性の方が関心が高く、年齢別では 60 歳以上の方の関心が高いという結果となった。

次に、その他について説明する。

- (1) 資料28、29、30ページ参照。中学3年生までのお子様がいる方に回答してもらい、お子様は体を動かすことが好きかという設問に対して、6割が好きと回答。

また、嫌いな理由としては、運動が苦手、他のことに興味があるとの回答。

そして、スポーツ以外のことで興味があるものとしては、ゲーム、テレビが挙げられた。

以上、報告となる。

最後に今回のアンケートでは、現在の習志野市スポーツ推進計画における進捗の確認や評価、そして、次期計画策定の基礎資料を得ることを目的に実施した。

習志野市スポーツ推進計画は、本市のスポーツのより一層の推進を図るため、令和2年度から令和7年度のスポーツに関する具体的な施策をまとめたものである。

生涯にわたり親しむ豊かなスポーツライフの実現、スポーツによるまちの活性化を掲げ、するスポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツを3つの柱とし、本市のスポーツを推進している。

委員の皆様には、このアンケートからの意見、感想、そして、次期計画に向けた取り組みなど、助言をいただきたい。以上。

【阿川会長】

現在の習志野市スポーツ推進計画の中で、目標としている、するスポーツについては、令和7年度を目標に60%と設定しており、今回の資料を拝見すると、週1回以上、スポーツや運動を行っている市民の割合は、53.7%で、概ね近づいてきているが、ほかのみるスポーツ、支えるスポーツについては、乖離がある。

みるスポーツについては、コロナ禍の影響が残っていると感じる。支えるスポーツについても、割合が低い印象。

これを踏まえて、事務局からの報告について、意見等はあるか伺う。

【瀬山委員】

小学校では、マラソン大会があり、それに向けて、子供たちが朝早く来て、競い合っている。子供たちはやはりスポーツが好きだと感じる。

先程、運動しない理由として、場所がないという話があったが、暑くてもスポーツが行える施設を提供できるよう市にお願いしたい。

【忍課長】

我々、生涯スポーツ課の計画の中に、例えば、トッププロチームとの連携で、オービックシーガルズというアメリカンフットボールチームと連携をし、小学校へ出向き、フラッグフットボールを教えたり、それ以外でも運動を教える活動を行っている。

その辺りの周知と時間についても調整しながら携わっていかれたらと思う。

場所については、限られた中で一緒に考えていきたい。

【大沢委員】

アンケートの結果を踏まえて習志野市として何かをしたのか伺う。

【忍 課 長】

項目自体は比較のため、継続している。

平成 27 年度から運動を行っている割合が上がってきている。

【大沢委員】

実際にその割合を上げるために、具体的に何をしているのか伺う。

【阿川会長】

例えば、認知度が低い、総合型地域スポーツクラブ、或いは習志野市の市民スポーツ指導員制度、それから、スポーツ推進委員の奨励大会、色々な形の間で、アナウンスし、そこに参加してもらい、場の提供することを 1 つの方策として進めている。

【忍 課 長】

現在、我々の部署で行っている具体的なものでいうと、住友生命と行っている事業である Vitality 習志野ウォークというものがあり、登録をしていただいて、歩いて、運動し、達成すると、飲み物などをお店でもらえるというイベントを行っている。

ここからみる、支えるの方に繋がっていく事業と考える。

【引原委員】

何をしたから変化があったのか。

例えば平成30年の時とここ数年の施策の違いが重要なのではないか。現状把握も重要だが、目標値があるので、施策の効果等の分析は必要なのではないか。

Vitality については、日常的な身体活動を増やすという施策なため、直接的なスポーツとはやや違うのではないか。意外と健康増進とか体力づくりには関心があるということは、必ずしも運動スポーツではなくても、その Vitality という活動が健康増進に繋がるのであれば、そういったことも実は重要なのではないか。

【阿川会長】

アンケート結果を見ると、集団スポーツよりも1人でできる種目が非常に人気がある

ようだが、今テレビでも拝見するようになったスポーツジムのチョコザップでは、月額税込 3,000 円で運動だけでなく、カラオケやゴルフがなども練習でき、今後どうなっているか注視している。

このような参考になる意見等はないか伺う。

【山口副会長】

チョコザップを利用している方から話を聞くと、職場の近くにあるから通いやすい、また、服装を気にしなくてもよいので気軽に行けるとのこと。会員になって最初は良いが、だんだん寂しくなり、一人でやるのが続かなくなってしまう。

一方で、市内のトレーニング室などでは、1人で行っても周りにトレーニングしている人がいる、また、スタッフもいて、誰かがいるからという仲間意識がある。

続けていくためには、人とのかかわりも大事だと考える。

【大沢委員】

スポーツする人を増やすためにメリットを提示するのはどうか。

例えばポイント制度を導入し、スポーツ施設に行き、スマートフォンなどをかざすとポイントが貯まるなど、習志野市としてスポーツを推進していくと、変わっていくのではないかと。

【阿川会長】

ならしの健康マイレージとはどんなものか伺う。

【忍 課 長】

他部署の担当であるが、ならしの健康マイレージは、健康的な生活習慣のきっかけづくりとなる習志野市独自のポイントプログラムであり、ポイント達成者には、協力店でその店独自の特典が受けられるというもの。

次期計画策定の具体的な項目として、検討していきたい。

【阿川会長】

支えるスポーツの割合を増やしていくための意見等ないか。

現実、ボランティアは厳しい状況にある。

【忍 課 長】

ボランティアは集まりにくいのが現実。具体的には、オービックシーガルの試合で団体をお願いをしているが、足りないのが現状。

【阿川会長】

地域のスポーツクラブに運営として声をかけると、競技をやるときはよいが、運営側となるとあくまでもボランティアであるため、なかなか難しい。

【菊地委員】

時間、お金がないと難しい。自分自身に置き換えて考えても難しい。好きなものではよいが、興味ないものは難しいと感じる。

【引原委員】

インセンティブで誘導するのは、適切ではないかもしれないが、ボランティアに参加した市民の方々にとってのメリットはあるのか伺う。

【忍 課 長】

現状はない。

【引原委員】

するスポーツより支えるスポーツに対してポイント還元があってもよいのではと感じる。

【大久保委員】

ボランティアについては、活動経験があるか大学入試等で重視している。

また、中高生については、部活動を通じたボランティアを意図的に行っている印象がある。例えば、私の研究室では、児童家庭支援センターが主催する放課後子供教室に、ミニバスケットボールのサポートとして学生ボランティア活動を行ったりしている。

今回のアンケートの支えるスポーツの設問は、スポーツボランティアに絞っているという認識でよいか伺う。

【忍 課 長】

お見込みのとおり。

【大久保委員】

所属するスポーツ団体やクラブでの補助的な活動も、支えるスポーツに含まれるのであれば、スポーツボランティアという名称が出てきていないだけで、実は自発的に家族の所属するスポーツ団体などのサポートをして、支える生活は行っているのではないかと伺う。

【忍 課 長】

スポーツに特化した設問であるが、対象として、スポーツ大会の運営、事務的な業務、審判も役員や、その他補助的なお手伝いも含まれるため、支える側に含まれる。

【大久保委員】

教員になりたい学生としては、ボランティアはアピールポイントとしてよいが、大人としてのメリットは難しいと感じる。

【阿川会長】

その他、意見はあるか伺う。

今回、委員の皆様からの意見を踏まえて、今後の生涯スポーツ課の事業に生かしていくようお願いしたい。

第7 その他

【阿川会長】

連絡事項はあるか。

【忍 課 長】

今後の日程について連絡をする。

第3回会議は、令和7年2月5日水曜日、16時からサンロード6階特別会議室を予定している。

【閉会】

阿川会長が令和6年第2回習志野市スポーツ推進審議会の閉会を宣言。